
アプリケーション理解

Excel VBA

【目次】

マクロの基本	3
マクロとは?	3
マクロを使えるようにする.....	3
マクロを作成する手順.....	5
マクロを実行する	6
マクロの内容を確認する	7
マクロをファイルに保存する.....	8

マクロの基本

これから Excel のマクロ/VBA を勉強していきます。マクロとはなんでしょうか。

マクロとは？

マクロとは大きいという意味で、反対語が小さいのミクロです。

プログラムの世界では、「一連の機能」とか「おおざっぱなプログラム」といった意味になります。

Excel でなにか操作をしたとしましょう。例えば A の 1 に 36 と数値を入力したとしましょう。実はこの作業をマクロに一連の作業として保存できるのです。

マクロを使えるようにする

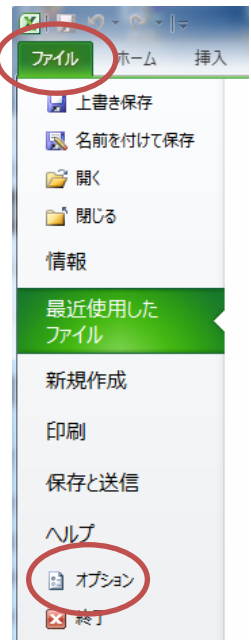
購入した Excel のままでは、このマクロ機能が使えない場合があります。

Excel を起動しましょう。

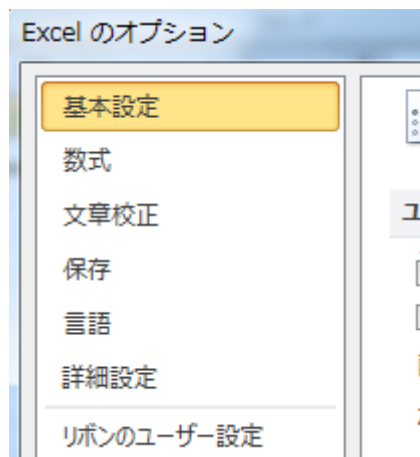


すると画面の上にならんだリボンの中に「開発」の文字がない場合があります。その時は、以下の様な作業をして「開発」を出しましょう。

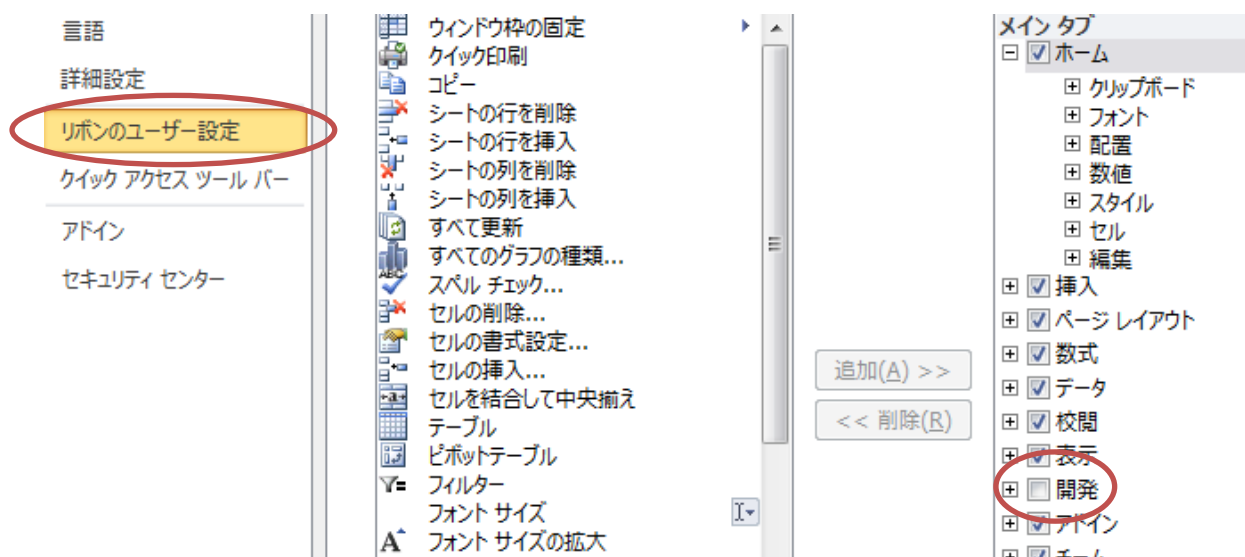
ファイルメニューをクリックしてファイルメニューを開き、その中のオプションをクリックします。



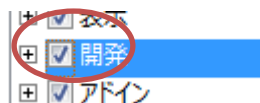
すると、Excel のオプションのダイアログボックスが表示されます。



そのメニューの中の「リボンのユーザー設定」をクリックすると、画面が切り替わります。



その画面の右側の「開発」のチェックが外れている場合は、そこにチェックを入れてください。



その後「OK」のボタンを押してください。

すると、上部のメニューに開発が追加されます。



これでマクロを使う準備ができました。

マクロを作成する手順

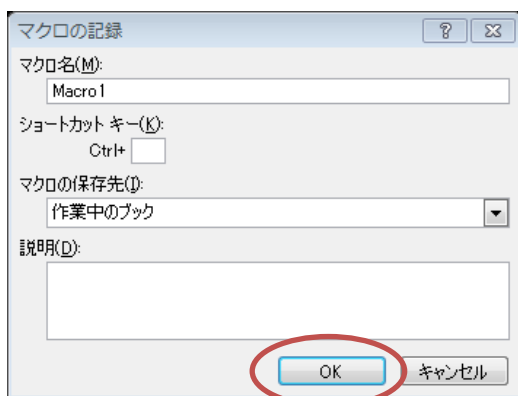
では、マクロを作る手順を追ってみましょう。

最初に、開発リボンに切り替えます。開発をクリックします。



マクロは一連の作業ですので、最初にマクロの記録を開始する作業が必要です。

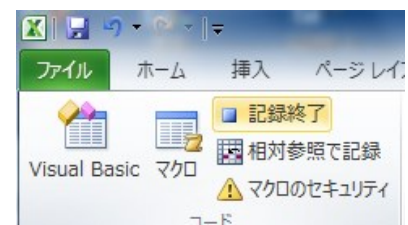
画面左上の「マクロの記録」をクリックします。
すると下図のようなダイアログボックスが現れます。



これは、「これから保存するマクロは Macro1 という名前で保存しますがよろしいですか？」
という意味になります。OK を押すとマクロの記録がはじまります。

	A1	
	A	B
1	36	
2		

	A	B
1	36	
2		
3		



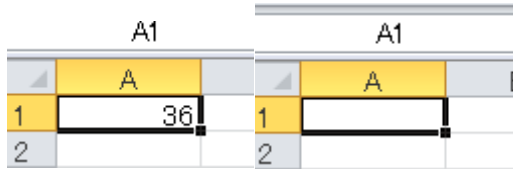
A1 に 36 と入力。 Enter キーを入力。 記録終了をクリック。

これで終了です。Macro1 に今の手順が保存されました。

マクロを実行する

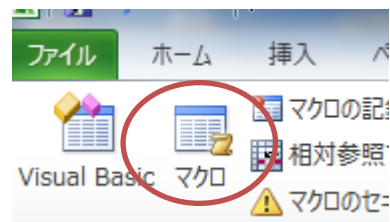
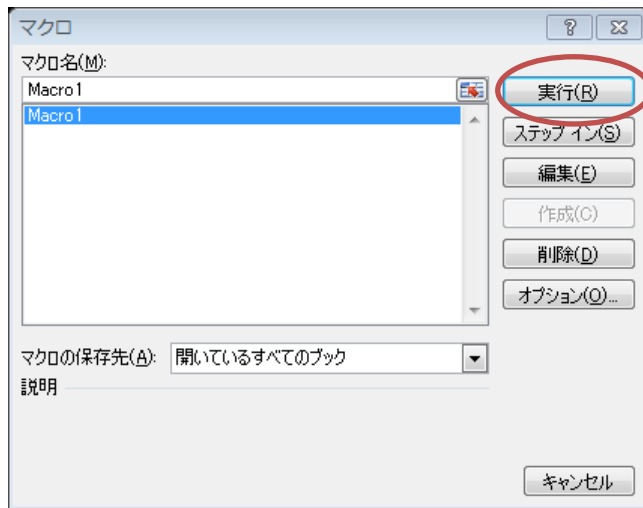
では、今保存したマクロを実行してみましょう。

最初にさっき書いた 36 を消します。



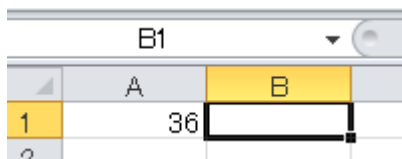
A1 のセルをクリックして「Delete」キーを押します。

続いて、マクロアイコンをクリックします。



Macro1 が選択された状態だと思えます。ここで、実行ボタンをクリックすると、このマクロが実行されます。

これで、画面が次のように変わります。



A1 に 36 が入力され、カーソルが B1 に移動しました。

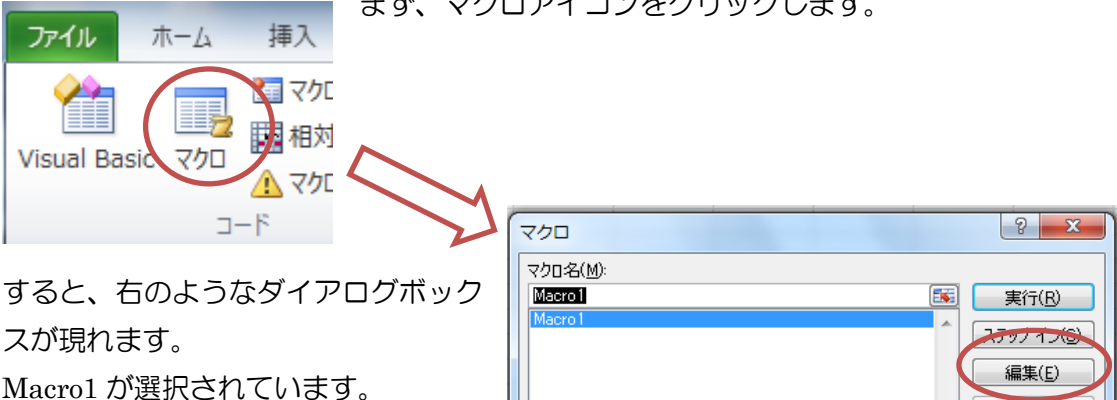
これがマクロの実行です。何度でも実行できます。このように簡単はマクロではあまり価値がありませんが、複雑な手順を保存しておけば価値がでてきます。

マクロの内容を確認する

このように、マクロは一連の処理を記録することができます。では、その仕組みはどうなっているのでしょうか。

マクロの中身を見てみましょう。

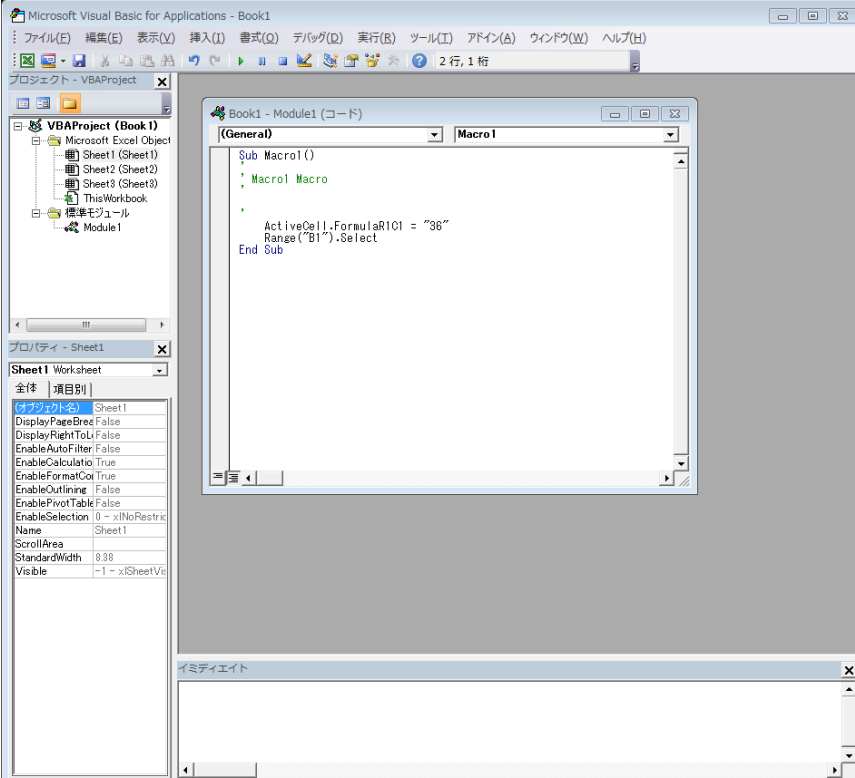
まず、マクロアイコンをクリックします。



すると、右のようなダイアログボックスが現れます。

Macro1 が選択されています。

ここで編集ボタンを押してみましょう。



```
Sub Macro1 ()
    Macro1 Macro
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "36"
    Range("B1").Select
End Sub
```

新しいウィンドウが表示されました。これが、VBA の正体です。マクロは、自動で保存された一連の動きですが、その中身は1行1行のプログラムです。このようにして自分で編集すると VBA となります。

VBA の中身をもっと見てみましょう。

```
Sub Macro1()  
    ' Macro1 Macro  
    '   
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "36"  
    Range("B1").Select  
End Sub
```

この部分を見てください。先頭に Sub Macro1()と書いてあります。これがこのマクロのタイトルの部分です。

次の ActiveCell.FormulaR1C1 = "36"が、1行目1列目の A1 に 36 を入れます。という意味です。

その次の Range("B1").Select が、B1 に移動して、選択しなさい。という意味です。

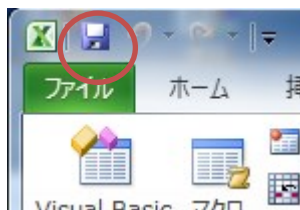
このように Excel でなにか作業をすると、それが1行ずつのプログラムに置き換わってきます。これを名前を付けて保存したものがマクロなのです。

このように自動で作られたマクロとは別に、それを初めから人間が書いていくことができます。これを VBA といいます。

われわれは、この VBA が書けるようになりたいと思います。

マクロをファイルに保存する

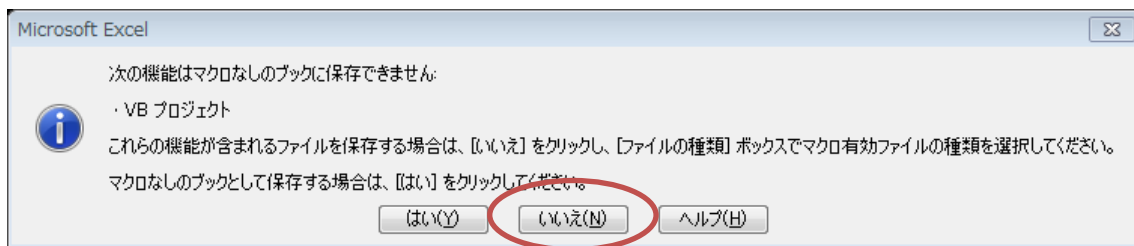
では、この Excel ファイルを保存しましょう。



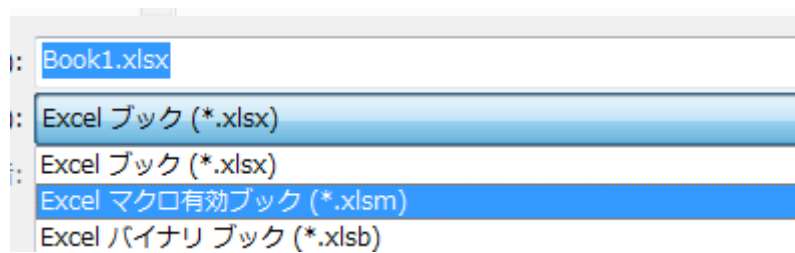
画面左上の上書き保存アイコンをクリックしましょう。



ここで、保存をクリックすると、メッセージが表示されます。



保存できませんとメッセージが出ます。ここでいいえを押します。



ファイルの種類をクリックして「Excel マクロ有効ブック」を選択します。
これで保存を押すと、保存できます。